

# 公孫樹

東京都立  
豊多摩高等学校  
令和7年12月  
第68号  
東京都杉並区  
成田西 2-6-18  
TEL 03(3393)1331

## 「隅々までこだわりたい」

学校長 高見澤 健吾

「神は細部に宿る」20世紀初頭の建築家ミース・ファン・デル・ローエが好んで使っていた言葉です。たいへん示唆に富んでいる言葉で、芸術家や建築家、実業家、果ては政治家など多くの人々に、多様な場面で用いられています。元サッカー日本代表の岡田武志監督も「勝利の女神は細部に宿る」と、この言葉を引用しています。ドイツで開催されたワールドカップの日本対オーストラリア戦で、相手のミドルシュートに対し、きつと入らないだろうとの思いから十分に体を張らなかつた結果、ゴールが決まり日本は逆転負け。しっかり体を張って阻止しようとしていたら、この結果にはならなかつた。戦術や個人技以上に、そういった隅々への意識が影響する。これくらいで良いだろうではなく、ちょっとしたことを日頃からきちんとできている。そういう些細なことが勝負を分けると言っています。

仕事は勝負ではありませんし、人間もパーフェクトではありませんが、細部を目指していかなければ、また、意識しなければ、完成度の高い良い仕事はできないと思います。しかし、実際に私自身で考えると、やはり脆弱なことや粗削りな場面があることは否めず、日々、点検・反省を繰り返

しています。反省して下ばかり向いていても仕方がないので、すべて完璧な人間はいないと前向き（言い訳？開き直り？）にとらえています。ただ、細部まで熱をもって取り組むことを目指す、意識することが大切であると考え、ひたむきに努力はしています。

学友の皆さんはどうでしょうか。高校生の仕事といえば、学習、部活動、行事でしょうか。なにかと忙しい皆さんです。なかなか難しいとは思いますが、細かいところまでやり切れている？雑になっていない？と点検してみてください。学習、部活動、行事……。

何かが見え、こだわってみようという考えになり、良い成果が現れ、力が大きく伸びることにつながるかもしれません。細部まで熱をもてる人になりたいですね。共に頑張りましょう。



Touch the Sky! TOYOTAMA!

## 「記念祭を終えて」

生徒保健部 木原 延昭

本年度の記念祭は、まだまだ大変暑さ厳しい中、9月6日(土)・7日(日)に盛大に行われました。1日目11,275名、2日目11,395名、合計22,670名の一般および保護者の方にご来校いただきました。改めまして、たくさんのご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

今年度の記念祭実行委員会の学友たちと初顔合わせをした4月から、総長・副総長に加え、「各局キャンプ」と呼ばれる部門（調理・装飾・会計など）のリーダーたちを中心に、話し合いを重ね準備を進めました。初回のミーティングで、「去年の記念祭を確実に上回るものにしよう」という思いを共有しました。そして、とにかく記念祭を準備段階から楽しめるよう、実行委員として全体をプロデュースしていくことも確認しました。担当である私からの願いとしては、「何か巨大なものを作ろう」ということも申しました。

この2年生のキャンプ軍団がとても素晴らしく、大変意欲的に「記念祭を絶対盛り上げてやるんだ!」という気概に溢れたメンバーが揃いました。総長・2年の松本日陽さんは、私への「報・連・相」を欠かさず行い、日々たくさんさんのアイデアを提案してくれました。そうなる、私も彼らのやる気に応えていく気持ちで自然と強くなっていきます。「彼らと一緒に記念祭を絶対に成功させるぞ」との思いは日に日に増していききました。担当として、総長はじめこのキャンプのメンバーたちと巡り会えたのはとてもラッキーでした。

装飾班の作成した入場門と巨大垂れ幕は、今年の記念祭の目玉でした。特に入場門は実行委員だけでなく、広く有志の学友たちも製作に参加し、今年度の修学旅行の地「沖繩の守礼門」をモチーフとして荘厳で巨大な門が完成しました。垂れ幕についても素晴らしいものが出来上がり、約縦6m×横10mで沖繩の県花「ハイビスカス」に「豊多摩記念祭」の大きな文字が映えるものでした。今年は2つの「映えスポット」での来場者による写真撮影がたくさん見られ、その光景に実行委員とともども感慨深い思いをしたものでした。



さて、今年の記念祭の大きな特徴は、演劇団体の増加です。特に、3年生は8クラス中6クラスが演劇上演を行い、1年生の1クラスを加えて7クラスが演劇を上演しました。視聴覚室と生徒ホールの2つの会場で熱演が繰り広げられ、どの回もどのクラスも満員御礼、歓喜の拍手に包まれました。この光景を見た2年生が「来年は、オレたちも演劇やろう」と口々に漏らしていたのも印象的でした。



調理室のスペースの関係上、調理団体数の制限を設け、それによりはじめてキッチンカーを招聘しました。クレープやかき氷、たこ焼きにケバブなど、どの店舗も行列ができる盛況ぶりでした。担当として、飲食はキッチンカーに任せて、クラス企画は演劇などの発表や巨大展示物の作成などに取り組んで欲しいという願いもありました。キッチンカーを次年度以降継続するか否かの是非は今後検討するとして、演劇を中心とする発表・企画展示がさらに増えて流れになってくれれば嬉しい限りです。

記念祭の実現は、教員だけでなく、もちろんPTAをはじめとする保護者の皆様のご理解とご支援なくしては成し得ないものです。特に、キッチンカーの導入により「おやじの会」のみなさまには、例年にな

いご心配に加え、今年の内容に沿ったご対応をいただいたきました。豊多摩高校は同窓生・保護者のみなさまの絶大なるバックアップがあり、その安心感の中で思う存分に力を発揮できているという事実、改めて認識させられた記念祭でした。

今後とも引き続き、本校の教育活動に変わらぬご理解とご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 「体育祭を終えて」

生徒保健部 今井 一雄

令和7年9月26日(金)、無事に今年度の体育祭を終えることができました。今年も9月末の実施でしたが秋の気配は感じられず、暑い日々が続くなかで、大きな事故、ケガなく実施できたことにほっとした気持ちです。PTAからはミストシャワーのレンタルをしていただき、生徒は大いに活用させていただきました。また、多くの保護者の皆様に観覧いただき、声援が生徒の活躍を後押ししてくださったこと感謝しております。

今年度は3年生の実行委員長を中心に各団応援団長がまとまり、非常に結束の強い組織で運営されました。ルールや実施内容を精査し、様々なアイデアを出し合い、より楽しめる競技へのリニューアルを果たしたことは素晴らしいと思います。このことは例年散見されるルール、判定への不満がほとんど見られなかったことに表されていたのではないのでしょうか。開催時期などの課題も今後検討されますが、どのような形であれ、素晴らしいものを作り上げていける力を豊多摩学生は持っていると感じて改めさせていただきます。